

「水俣病とむきあった労働者」

2009 年 12 月 12 日

講師紹介

石田博文（元新日窒労組執行委員）

1941（昭和 16）年水俣市（当時水俣町）に生まれ育つ。中学校卒業後（1956 年）、新日本窒素（現チッソ）に入社し、電気部に配属。組合では、機関紙部員、青年婦人部役員・部長、1965（昭和 40）年からは、専従で合化労連青年婦人部長を務める。1967（昭和 42）年から 4 期、労働組合執行委員（教宣部）、1971 年からは、地区組織・丸島拠点長も務めた。1972（昭和 47）年退職。水俣病第一次訴訟では、在職中にもかかわらず、原告患者側の証人として出廷し、会社の労働状況について証言している。

糸田憲夫（元新日窒労組執行委員）

1940（昭和 15）年、北朝鮮咸鏡南道興南邑湖南里に生まれ、終戦と同時に日本に引き揚げる。小学校 4 年生のときから水俣に居住する。1958（昭和 33）年、県立出水高校卒業、1960（昭和 35）年、チッソに入社。安定賃金闘争後、子会社の南九開発に配置転換され、不当な賃金差別を受け続けた。組合では、1969（昭和 44）～1974（昭和 49）年、1976（昭和 51）～1989（平成 1）年執行委員、1990（平成 2）～1999（平成 11）年、執行委員長を務める。2000（平成 12）年 4 月定年退職。

江口和伸（元新日窒労組青婦部長）

1936（昭和 11）年水俣市に生まれ、父の転勤により北朝鮮興南で育つ。1946（昭和 21）年興南より引き揚げ、1953（昭和 28）年中学校卒業後、チッソに入社、庶務課に配属。その後技術部分析課、分析研究室勤務となる。組合では、1957（昭和 32）年より青年部「ちしお」編集員、1962（昭和 37）年の安定賃金闘争時の青年婦人部長、1963（昭和 38）～1967（昭和 42）年、執行委員を務める。この間、水俣病市民会議結成に参加、水俣病第一次訴訟原告患者側の証人としてチッソの環境破壊について証言した。安定賃金反対闘争当時の東門事件、水俣駅プラットホーム事件などを理由に 1965（昭和 40）年 10 月、不当解雇された。以後、1970（昭和 45）年まで組合の専従として不当解雇反対闘争を闘う。

江口睦美（元新日窒労組婦人部長）

1937（昭和 12）年鹿児島県出水市に生まれ育つ。県立出水高等学校卒業後、1956（昭和 31）年チッソ入社。組合では、1960（昭和 35）年より初代婦人部長を務めた。1981（昭和 56）年夫の熊本勤務にともない、退職。現在、NPO みなまた（認知症老人のグループホーム 3 ヶ所、通所 1 ヶ所）理事、水俣病資料作成など環境問題に取り組んでいる。

山下紀久子（元新日窒労組婦人部長）

1940（昭和 15）年島根県に生まれ、朝鮮で育つ。1945（昭和 20）年に日本に引き揚げ、津奈木町に居住。1959（昭和 34）年県立出水高校卒業後、チッソに入社、人事部に配属される。安賃闘争後、施設 5 課・作業課に配属、差別的扱いを受ける。その後、総務課・経理課と配属されるも仕事を与えられず、業務課に配属されてから、仕事が出来ようになる。2000（平成 12）年 11 月退職。組合では、闘争中は情宣班で宣伝カーに乗車、第 2 代婦人部長。

花田昌宣（熊本学園大学社会福祉学部教授・水俣学研究センター事務局長）

1993 年までフランスの三つの大学で教員・研究者生活を送り、1994 年熊本学園大学社会福祉学部教授となり、現在大学院社会福祉学研究科長。水俣学プロジェクトでは、チッソ労働運動史研究会を主宰し、ヒアリングや資料整理に従事。日仏経済学会理事、社会福祉法人「くまもと障害者労働センター」理事長、障害者労働研究会座長、熊本県部落解放研究会会長なども務めている。主な業績として、「水俣病の社会史と水俣病特措法の経済学的批判」『環境と公害』39 巻 2 号、2009 年 10 月、『水俣学講義第 4 集』日本評論社